令 和 4 年 度　自 己 評 価 表

松山南高等学校（砥部分校）

学校番号 21

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	さわやかな目・豊かな心・確かな手を育てる 夢を育み、志高く個性を伸ばす教育の推進 －生徒一人一人を大切にした指導の実践－

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	生徒アンケートの回答「授業内容がよく分かる・分かる」:90％以上。 A:90以上　B:80～89　C:70～79　D:60～69　E:59以下 ICTの効果的活用による授業改善を進め、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。	A	生徒アンケートで、97％の生徒が「授業内容がよく分かる・分かる」という回答をし、目標を達成することができた。 ICTの効果的な活用法を研究し、授業改善を進めたところ、99％の生徒が「授業が工夫されている」と回答し、昨年度の評価を上回った。また、新型コロナウイルス感染症による出席停止等で登校できない生徒に対して、リモートで配信するなど、積極的な活用ができた。	引き続き、90％以上の生徒から「授業内容がよく分かる・分かる」という評価をされるよう、授業研究などを通して、各自研修に努める。 ICTの活用については、若干個人で技能の差があるので、効果的な活用事例を共有するなど、全体のレベルを引き上げる。
	デザイン技術の習得	校外展への応募を増やし、校外展入賞70点以上。 A:70以上　B:60～69　C:50～59　D:40～49　E:39以下 全国規模の公募に積極的に出品し、入選・入賞。	B	昨年度に引き続き公募展へ応募を試みた結果、校外展入賞は64点であった。入選を含めると122点である。内容としては、高文祭美術工芸部門と写真部門で優秀賞を2年連続獲得し、さらには全国大会出場枠を得た。秋季県展については、昨年以上の入選率・入賞者数を得ることができただけでなく、工芸部門で県展最高賞である愛媛県美術会大賞を受賞することができた。	校外展での実績を残すためには、引き続き授業の課題厳選が必要であり、一人の生徒に対し、多くの教員で細かい指導を行うことも必要だと感じる。また、公募、依頼に関する生徒への告知方法を工夫し、多くの生徒に経験させる機会を増やしていきたい。
		デザイン専門科目での基礎・基本を重視し、デザイン科会で教員間の情報共有を図ることで、効果的に高いスキルを身に付ける。 外部依頼などの実践的なデザインワークに応用できるスキルを身に付ける。	C	デザイン専門科目での基礎・基本を定着させるために授業数の確保はもちろんのこと、今年度も多くの外部依頼を引き受けることができた。授業では経験できないことを生徒は体験でき、実践的なデザインワークを深めることができた。また、科会での運営については、情報の共有というよりは業務内容等の確認や報告が比重の多くを占め、生徒の直接的なスキル向上には繋がっていないと感じる。	基礎・基本の習得については、デザイン科会を通して授業内容の改善やコンクール内容等の見直しなど前向きに図っていく必要がある。外部依頼に関して生徒の負担がかからない程度に可能な限り対応したい。また、多くの生徒が幅広い経験できるように生徒の人選を科会を通して引き続き図っていきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	端正な身だしなみとさわやかな挨拶の励行を通して、「地域の範となる砥部分校生」を育成する。	A	校内において、自発的な挨拶ができるようになった。各自で自覚を持って状況に応じた服装を心がけるようになった。	コロナの影響で校外での挨拶がしにくくなったり、挨拶の声が小さくなっている。状況に応じて高校生らしいはつらつとした挨拶を心掛けさせたい。
		欠席者、遅刻者数を減少させる。 1か年皆勤者率:40％以上。A:40%以上　B:30～39　C:20～29　D:11～19　E:10%以下	B	長期欠席・別室登校があったため、累計では欠席者数・遅刻者数とも昨年度より増加した。皆勤者は33.3％であったが、昨年と比較して5％増加し、改善が見られる。	一人一人の生徒の状況を把握し、教員間で情報共有しながら粘り強く指導を続ける。生徒が安心して学べる環境を確保する。
	交通安全指導の充実	交通法規の遵守と危険を察知する態度を育成する。 交通事故発生件数:0件。A:0件　B:1件　C:2件　D:3～4件　E:5件以上	B	校門指導や通学指導を通して、自転車ヘルメット着用、右側通行の定着ができた。自動車・自転車との軽微な接触事故が1件あった。	生徒会等の呼びかけを通して、登校時以外でもヘルメット着用、安全走行の徹底を図る。ゆとりを持った登下校に努めさせ、交通事故ゼロを目指す。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	進路目標を確立するため、年に2回以上、進路ガイダンスを実施する。	B	校外ガイダンスを1回、校内ガイダンスを2回実施した。生徒にとって、進路の情報を収集し目標を持つ有意義な機会となった。	進路指導の充実を図るため、次年度も計画的に進路ガイダンスを実施したい。
		進学補習を充実させ、学力と意識の向上を図りながら、志望する大学等への進学を実現する。	C	補習等を通して、継続した進学指導を行った。実技と他教科とのバランスが難しく、十分な成果が出せない生徒がいた。	各教科担任やクラス担任と連携を図り、作品制作の時間を確保しながら補習を行うなど、より効果的な進路指導の方法を探っていきたい。
	就職指導の充実	各種資格取得の奨励と就職講座の継続的実施により、職業観を育成する。 就職希望者全員の就職を実現する。	C	就職希望者全員の就職が早期に決定した。資格取得の奨励や、就職講座の実施により、就職に対する意識を高めることができた。	就職に向けての取り掛かりが遅い生徒がいる。早い時期からの指導の必要性を感じる。
豊かな心の育成	人権教育の充実	人権を尊重した環境作りといじめを防止する集団を作る。	B	アンケートによる生徒の実情把握や人権・同和教育ホームルーム活動を通して、学校全体で望ましい集団作りに取り組むことができた。	小規模校のため人権担当者が一人で人権同和教育の取りまとめをしている現状であり、研修会や調査等大規模校と同じように実施するのは負担が大きい。研修等は全校体制で臨みたい。
	自尊意識の育成	授業、制作活動、学校行事等の学習活動を通じて、自己決定、場面リーダー、相互評価を自尊意識の育成に努める。	B	ホームルーム担任による面談と、教育相談による1年生全員面談を行った。制作活動や学校行事に取り組み、達成感や自己有用感を高めることができた。構成的グループエンカウンターにより自己理解、他者理解、自己受容等を促進した。	学習活動の中で、自他を認める機会を作る。SGEによる信頼体験や自己受容の場を創出し、自己肯定感を高める。少人数の特性を生かし、個に寄り添った指導を継続しつつ、社会に通用するたくましい心身の成長を促す。
	心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成	心理教育や面談を通して、全ての生徒の心理的な発達を援助し、生徒の人間形成に関わる諸問題に対して主体的に自らの力で解決できるよう支援する。	B	今年度から、スクールライフアドバイザーを導入し、より適切に対応することができた。「オール松山南高」関連行事については、コロナ感染症の影響による制限を受けながらも、台湾交流事業や芸術文化発表会での交流を行うことができた。	あらゆる場面を通じて心理教育の機会を増やし、予防的カウンセリングを充実させレジリエンスを高める。 「オール松山南高」の意義を理解させ、可能な関連行事を模索し、多くの生徒の参加・交流を図る。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	メール配信システムやホームページでの連絡など、ICTを利用して学校と保護者の連携を確立する。 「PTA便り」を充実させる。	A	メール配信システムやホームページ、SNSを活用して学校と保護者の連携を密に行った。感染拡大防止により、PTA行事の中止、規模縮小などがあったが、熱心に活動できた。問題を抱える生徒については、家庭との連携を密にして、生徒理解に努め個に寄り添う指導を行った。	保護者の皆様の学校に対する信頼や熱い思い献身的な協力体制を実感する一年だった。その思いに応えつつ、行事や協力体制のあり方を検討する。生徒の個別対応については、信頼関係の構築を軸に学校と家庭の両輪で生徒を支え、PTAだよりも充実させる。
	地域貢献の推進	地元砥部町及び地域との連携・交流による制作活動年間6件以上。 A:6件以上　B:5件　C:3～4件　D:2件 E:1件以下	A	今年度は地元砥部町に限らず、多方面に渡り多くの依頼を受けた。現在完了している依頼が9件、進行中の依頼が4件ある。舞台美術背景の制作依頼や地元特産品のパッケージデザインなど依頼の幅も広く、これらにより生徒はデザイン対する実践的な経験を深めることができた。	砥部町を初めとした地元・地域との連携を引き続き図りたい。また、生徒の負担がかからないように引き受ける依頼を厳選する必要があると感じる。
	広報活動の改善・充実	ホームページ1日250アクセス数を目指して、ブログの更新を活発にする。 A:250以上　B:200～250　C:150～200 D:100～150　E:100以下	B	ホームページの鮮度を保つと同時に更新の頻度を上げたことで、アクセス数の増加を図ることができた。 アクセス数はおおむね200～250であったが、多い日には4,800アクセスを超える日もあった。	ホームページ更新に多くの教員が関わるようになったが、まだ特定の教員に偏っている状況下にあるため、より一層全教職員が率先してブログ更新に努める必要がある。
業務改善	適切な勤務時間	業務の精選と効率化を図ることで、生徒と接する時間を確保し、風通しが良く、働きやすい職場環境にする。 教職員の時間外労働を週45時間以内にする。A:0%、B:10%未満、C:20%未満、D:30%未満、E30%以上	D	ICTの活用やペーパーレスなど、業務の効率化を図るとともに、業務全般を見直すことで労働時間の縮減を図り、教職員のワークエンゲージを高めることができた。 また、年休等の休暇を取りやすい雰囲気を醸成し、ワークライフバランスを実現をできたが、週45時間以上時間外労働している教職員は全体の24.7%で目標を下回った。	学校業務のさらなるスリム化と、外部委託の受注を見直すことで、本来の学校業務に専念できる体制を再構築する。

※ 評価は5段階（A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった）とする。